

わたしたちの物語く大人の修学旅行く

河原正實さん幸子さんご夫婦 & 日本福祉大学 実習生

商店街、町会の仲間、仲良くしてた人々と、六十歳になんか思い出になることしたいねって。ちょうどその時、東海道五十三次の本が講談社から出ていたんです。

その本一冊を頼りに、じゃあ東海道、金かけないで歩いちゃおうって。

うんうん、そういう話が持ち上がって男四人でね。

それで、町会会館からずっと江北橋まで行って、もう土手一本で、ずっと歩いていったんです。その土手歩くと、看板が出ててね、その付近の物語やなんか書いてあるんです。それ眺めてるのも楽しいなって言いながら、どんどんどんどん歩いて。歩いていくといろんな人と出会うから、おしゃべりもするし。

男の人ばかり面白くようなことやってるから、私たちも一緒に行きたいっていう奥さんが何人か出てきて。うちの女房もね、一緒に行くっていう。そしたら、その話を聞いた町会の他の連中も全部で十二、三人に膨れ上がって。

それで、ただ行くのはもったいないからって、旗をこしらえて。うちに今ね、その記念になる旗あるんです。あの世へ行くとき、その東海道のやつ入れてくれって。

東海道、歩いていくと地層になってる。踏んだ上にまた踏んだ土が重なるように歴史の地層が出来上がって。

昔の東海道で歩こうっていうんですから、山道入ってくんですよね。道間違えて、何度も間違えてね、出てったり入ったり。

十二、三人で歩いてるから、長くなって、道間違えちゃう。バラバラな二組に分か

れちゃって。うちの母ちゃん、大変だ、どこ行ったんだって。バックして探しに行ったりね。

丘の上を歩いてると、別れた連中が一生懸命歩いているのが上から見えて、おいおいって、お前らどこ行くんだ。そんなこと何度もあったりしてね。

いや、楽しい旅でした。

